

いち早く知るために

■安心ひろめる

各種緊急情報・学校の情報などをメールで配信するサービスです。

【登録方法】

toroku@nrc.gamagori.aichi.jp
へ空メールを送信

■みずから守る防災情報メールサービス

愛知県が行う、大雨や洪水の情報メールで配信するサービスです。

【登録方法】

ml-entry@mail.kasen-owari.jp
へ空メールを送信

■ヤフージャパン防災速報

アプリやメールで災害情報を入手できます。(本市はヤフー株式会社と平成25年6月19日付けで「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結しました)

【登録方法】

スマートフォン、携帯電話で登録方法が異なります。

<http://emg.yahoo.co.jp/>



↑南三陸町内の災害住宅建設現場。(左上完成イメージ) 施設は高齢者や子育て層が安心して使えるような計画になっている。今年夏完成予定。

→不通となっているJR気仙沼線の鉄道復旧までの代替措置としてBRT(バス高速運送システム)が運行中。

これからの防災

3.11東日本大震災から3年が過ぎようとしています。復興に向けて尽力する東北の姿を



蒲郡市の防災に生かす

○消防本部予防課 柴田 航(平成25年7月9日)
「私たちのこの蒲郡市が、津波によって全てを失う光景を想像できますか？」

南三陸町では、まさにその言葉通りの光景が一面に広がっていました。

いつ起こってもおかしくない、大地震・大津波に備えるためには、「自助・共助・公助」(自ら・互いに・公的に備え、守る)という考え方を、今以上に意識することが大切です。震災後の南三陸町では、その意識が強いと感じました。

大規模な災害であればあるほど、「国や市が何とかしてくれるはず」と期待しがちですが、公助にも限界があります。まず、自らの命は自らが守り、そこから共助公助が行っていくという考えが大切となります。

防災意識を高め、できることから一つずつ取り組みましょう！

常に「本当に大丈夫か？」と問いかけてみる

○土木港湾課 三浦郷志(平成25年10月12日)
震災復興まちづくりの最前線で仕事をさせてもらった中で、改めて感じたのは、「現場に立った視点で、常に『本当に大丈夫か？』と問いかける」ことの大切さだった。

当時、南三陸町では防潮堤や避難道路の整備計画について住民意見のとりまとめをおこなっていた。そこでの議論は、たとえまた同じ規模の津波が来ても一人の生命も失いたくないという決意に満ちていた。意見を聞きながら、蒲郡市のケースを想定して同じ疑問を自分に問いかけてみた。「防潮扉を閉める人の命は本当に大丈夫か？」「巨大地震後の避難道路は本当に大丈夫か？」と。

千年に1回の巨大地震は10年先かもしれない。私たちには今、何ができるだろうか。歴史に学びながら、蒲郡の防災まちづくりを「未来のこどもたち」のために成し遂げていきたい。